

若きアーティストのために空き家を活用
～ Encounter Project in Nagasaki ～

Index

1、テーマに至った背景	P.2
[1] 空き家問題		
[2] 若年アーティスト		
2、概要	P.3
3、作品プロトタイプ	P.4
4、本システム導入のメリットおよびデメリット	P.7
5、問題点	P.8
6、現時点での限界と今後の課題	P.9
7、最後に	P.10

1、テーマに至った背景

[1]空き家問題

国土交通省が発表している「空き家の現状と課題」によれば、住宅ストック数は約6,060万戸あり、世帯数の約5,240万を16%上回っている。空き家の総数はこの20年で倍増し、空き家のうち「賃貸用または売却用」の増加率は減少しているが、「その他の住宅」の増加率は増大している。なお、「その他の住宅」とは「人が住んでいない住宅で、例えば転勤・入院などのために居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのためにとり壊すことになっている住宅など」となっている。

これらの空き家は管理が不十分で、防災性・防犯性の低下、ゴミの不法投棄、衛生の悪化（蚊、蠅、ねずみ、野良猫の発生や集中）、風景・景観の悪化などが社会問題になっており、各自治体も対策に力を入れ始めている。

（参考資料：<http://www.mlit.go.jp/common/001125948.pdf>）

これらの問題に何らかの形で貢献できないか？と感じたことが今回のテーマ選定のきっかけの一つとなった。

[2]若年アーティスト

京都には「あじき路地」というものが存在する。資料によると以下のような記述がある。

「名もない辻子や路地が数多くある京都でも、一際有名な路地があります。テレビや雑誌のロケ地としてメディアでも引っ張りだこで、最近では漫画や小説の舞台となったことでも注目を浴びている「あじき路地」。大家である「おかあさん」こと安食弘子さんが私費を投じて、ものづくりに励む若手作家たちを応援する町家長屋で、現在南北合わせて10人の店子たちが暮らしています。自宅兼アトリエは、週末になると焼き菓子店やオーダーメイドの帽子店やドライフラワー専門店といったショップとしてオープンする愉快的路地なのです。現在、あじき路地に軒を連ねているのは、焼き菓子店、アクセサリー店、照明の店、帽子店、三味線職人の工房、革製品店、絵師ユニットや切り絵作家のアトリエ、ドライフラワー専門店。空き家だらけで朽ちかけていた町家数軒を、夢や目標に向かって頑張る若者たちに貸そうと決めたのが13年前。広く住人を募り、第一期生が路地へと移住してきました。」

（参考資料：https://www.jtrip.co.jp/magazine_kansai/article/sight/5705/）

このような資料を目にし、我々も夢や目標に向かって努力するものの住まいや工房、アトリエの問題、また金銭的な問題で困っている若いクリエイターを支援できないかと考えたこともきっかけの一つとなった。

さらには、上記の(1)(2)にはお互いの「困った」を補完できる関係性があるという考えに至った。双方のニーズをマッチングできるシステムを構築したいという思いから、今回のテーマ選定に至ることになったものである。

2、概要

今回のシステムは、Webサービスを前提としている。

空き家を抱えて困っているオーナーと、生活や創作・販売の拠点で困っているアーティストとのマッチングを提供するサービスである。

オーナーは空き家を安く貸し出して家賃収入を得ることができ、アーティストは希望する「場」を安く借りることができ、お互いの困ったを解決に導くことを目的としている。オーナー側は登録後に空き家の場所を地図で示し、さらに場を貸し出す際の各種条件や希望、許容範囲などを示す。

アーティスト側は自身の紹介および作品の紹介、場を借りる際の希望などを登録する。それらを互いが閲覧することができ、条件が合う場合には互いの立場からそれぞれオファーをかけることができる。

また、自分の作品の販売ルートで困っているアーティストを支援したいという目的もある。そのために、前述の空き家の登録とは別に店舗の登録も可能としている。

店舗のオーナーでお店の一角をアーティストのために提供してもいいという場合、空き家と同様に登録を済ませて地図上にプロットし、アーティストからオファーをすることができる。

もちろん、店舗側からアーティストへのオファーも可。

場を提供する際の条件や借りたい側の希望などは、空き家の場合と同じで双方が事前に示しておく。

さらには販売ルートを拡大するためのイベントも登録可能であり、同様に双方からオファーをすることができる。

このように、お互いの困ったをメリットに変えることがこのシステムの大きな目的である。

イメージとしては、現代のトキワ荘である。

3、作品プロトタイプ

上記システムの一部について、イメージを制作している。

現時点で以下のURLにおいて実際に確認できる。

<https://prottapp.com/p/fe604b#/s/5a2259884942fb64051eae29>

このシステムはWebシステムであるが、上記URLで確認できる内容について各ページの変遷および解説を以下に示す。

なお、現時点では限られた部分しかできていないが、今後の課題については後述する。

[1]: 概要

このシステムの概要を示している。

画面のクリックで[2]へジャンプする。

■ チーム名 Waku Posi
■ 作品名 Encounter Project in Nagasaki
■ 作品概要 夢を追っているアーティストやクリエイターと、空き家などを活用して住居や販売スペースを提供可能な支援者をマッチングするWebアプリケーション
■ データセット名 長崎市空き家・空き地情報バンク

[2]: トップページ

このWebサービスのトップページである。各サービスへのリンクが設置してある。



本来、画面内のABCをクリックするとそれぞれ、空き家と店舗とイベント情報を表示してあるページにジャンプすることを想定しているが、今回のプロトタイプは共通のページ[3]にジャンプする。

[3]: メインページ (情報ページ)



ここではエントリーしているアーティストの情報や、空き家・店舗・イベントの場所と詳細情報を確認することができる。

さらにはその情報を気に入った場合、オファーを出すことができる。オファーはアーティスト側と空き家・店舗・イベント主催者の両方からお互いに出すことができる。

D: エントリーしているアーティストの情報を見ることができる→[4]

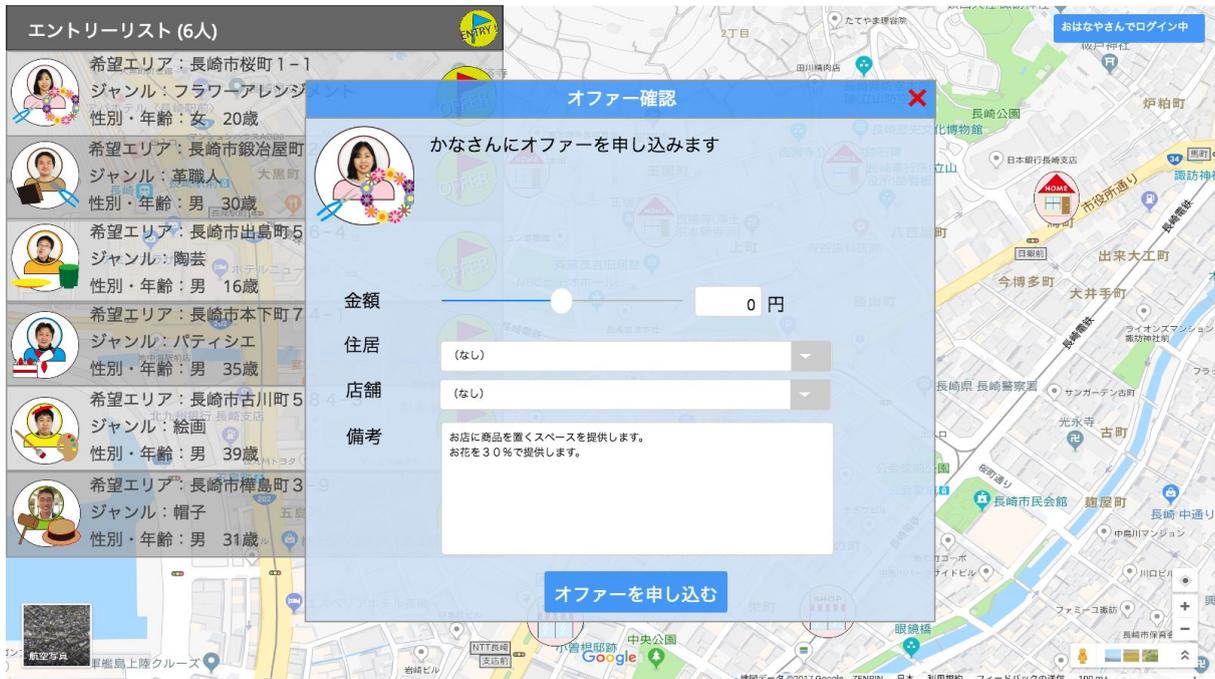
E: エントリーしているアーティストにオファーを出すことができる→[5]

F: 店舗や空き家の情報を見ることができる→[6]

[4]: エントリーしているアーティストの詳細、気に入ればオファーボタンを押すことが可

	名前	長崎 けんたろう	活動名	KEN
	TEL	090-xxxx-xxxxx	メールアドレス	sample@xxx.com
	生年月日	1995 / 1 / 1		
	ジャンル	革職人		
自己アピール	皮遣ひから糸遣ひまで、細部にこだわった商品です。一生使ってもらえるよう、デザインだけではなく機能性も重視した作品作りを心がけています。			
公約	5年以内にグッドデザイン賞を獲る			
希望	住居はもちろん、展示販売できるスペースがほしい。			
作品				
	戻る			

[5]: オファー画面



[6]: 店舗や空き家、イベントの詳細



4、本システム導入のメリットおよびデメリット

本システムが稼働後の起こりうる活動によって、どんなメリットやデメリットが考えられるか、以下に列挙する。

[メリット]

- ・ 空き家問題が解消する
- ・ 空き家オーナーの収入が増える
- ・ 空き家の固定資産税が軽減できる (人が住むのと住まないのでは固定資産税が6倍違う)
- ・ 空き家が減ると治安や景観が良くなる
- ・ 若い人が増えると地域の高齢化の歯止めになる
- ・ 長崎でしか買えない商品も出てきて、限定感がある、ブランド化につながるかも
- ・ アーティストの活躍の場が設けられる
- ・ 人口減少問題の解決にも貢献できる

[デメリット]

- ・ イベントスペースとして利用すると騒音問題に発展する可能性もある
- ・ 地場の人の中には、いわゆる「よそ者」を嫌う人もいるかもしれない

5、問題点

本アイデアを実現するにあたって、現時点で考えうる問題点を以下に列挙する。

- ・自治体の空き家情報はあるが、具体的にどのように利用するかがまだ不明確。
- ・自治体との協力関係が不可欠になりそうだが、そもそもそのようなことが可能か。
- ・空き家のオーナーは高齢者が多いことが考えられる。システムをうまく活用できるか。
- ・物件の契約はどうするのか、仲介にあたるのか。 その場合、資格を持った人が必要。
- ・まだまだシステム上、実装しなければならない機能がたくさんある。
- ・現状サービスはC to Cなのでマッチングが成功した場合に仲介役が必要になる。

6、現時点での限界と今後の課題

現時点ではまだまだアイデア段階であり、少人数だけの知恵では発想に限界がある。現時点での限界と今後の課題について以下に列挙する。

[限界]

今回のアイデアを出すにあたって、数名の知恵を集結した。しかしITや不動産に関する専門家がおらず、あくまで一般的な知識やイメージにおける発想に留まっている。現代における社会問題やニーズから考えられるアイデアを出すことに尽力したが、それを実現するにあたっては多くの課題や問題点があることも浮き彫りになってきた。多方面からの専門的知識や協力体制、あらゆるデータを活用することで少しずつ実現に向けての進捗は可能かとも思われるが、現時点でのマンパワーだけでは発想も専門的知識も不足しており、その点では限界がある。

[今後の課題]

本アイデアを実現するには、より多くの専門家の知識や知恵が必要となる。よって、多方面とのコネクションが今後の課題であり、各自治体との協力体制も必要となる。また、システムの機能面でも現時点でのプロトタイプはまだまだ不足している。考えられるニーズはあるが、それを実現するためには多くの時間と労力が必要となるため、それらも今後の課題である。

7、最後に

今回、Code for Nagasaki に所属しオープンデータという概念やそれらの活用事例について学んできた。また、多くの自治体がデータをオープン化しているとも聞く。実際にそれらのデータを活用して地域のために役に立っている事例を目の当たりにし、ちょっとしたアイデアと行動力があれば多くの人の「困った」を解決に導くことができることも学んだ。今回、我々も一つのアイデアからプロトタイプ制作に至ったが、それは楽しくもありまた困難でもあった。

ただ大きな可能性を感じることができたのは間違いない。

まだまだ課題は少なくないが、「夢」を実現するために尽力するのもいいものだと感じた。

一つの小さなきっかけから、何かをぜひ生み出してみたい。